

廃棄物処理業界の

人材確保・育成を目指して

④



全産廃連の取り組み(4)

森谷賢専務理事に聞く(下)



——モデル研修会の特徴は。

「まずは収集運搬、中間処理、最終処分と業態別に分けて行ったことだ。また産廃業界は労働災害の発生率が高い業界で、職員が安心して作業できるようにすることが大切なので安全衛生の講義を設けた。地域社会や排出事業者からの信頼確保に向けた対応などについても盛り込んだ。業態別講義ではそれぞれの業態で実際に業を行っている人を講師に迎え、より現場に即した講義となった。

研修の実施につなげていきたい」

——アンケートの結果を見て思うことは。

「収集運搬についてはもっと高度なことを知り

社で取り組んでいない方法については理解しづらいという声もあった。中間処理については、今後の研修では処理方法ごと工夫する必要もあると

の3つあるいは中間処理を区分して5つ程の分野における資格制度を検討していくが、将来はマニフェスト管理、契約書管理など事務系の職員の資

望は。「資格制度を作っても、周りが認められなければ意味がない。資格の確かさ、信頼性をいかに業界外に理解してもらう

「研修制度については、本格実施には今年度含め2年必要だと思っている。モデル研修会を踏まえ、改良した形のを都道府県協会の協力も得て今年度全国で5カ所程度実施できればと思っている。来年度はできるだけ多くの都道府県で実施して行ければ理想だ。都道府県協会との役割分担をどうするかや、講師の確保、テキスト作りといった課題はまだ残されている。資格制度については、イメージは議論したので、今年度案を作ったので、今年度試行したいと思っている。資格制度も18年度には本格スタートさせたい」

今年度5カ所程度で研修、資格制度2年後開始目指す

たいという人もいた。収集運搬では車を運転し、現場で積み込み・積み下ろしをしている人が多数いるので、L1向けの研修も必要ではないかと思

「当面はL2レベルを対象にし、業務遂行に必要な能力・知識を有しているかを排出事業者等に客観的に示す資格制度を創設する。当面収集運搬、中間処理、最終処分

格も検討していく必要がある。また、L1、L3レベルの資格も考えて行かなければならないだろう」

えるかが大事だ。これは連合会だけでは決められないことだが、例えば現在の優良産廃処理業者認定では、将来それより一段上の優良認定を考

「新しい研修の延長線上に資格制度があるのか。」「資格を得るに値する能力・知識があるかを判断するために、検定試験などが必要だろう。その一方で人材育成の研修は、今は備わっていない能力・知識を身に付けるために行うものになる。資格制度と直接結びつくものと、個々のレベルアップを図るための研修は分けて考えなければならぬだろう」

「資格を得るに値する能力・知識があるかを判断するために、検定試験などが必要だろう。その一方で人材育成の研修は、今は備わっていない能力・知識を身に付けるために行うものになる。資格制度と直接結びつくものと、個々のレベルアップを図るための研修は分けて考えなければならぬだろう」

「資格を得るに値する能力・知識があるかを判断するために、検定試験などが必要だろう。その一方で人材育成の研修は、今は備わっていない能力・知識を身に付けるために行うものになる。資格制度と直接結びつくものと、個々のレベルアップを図るための研修は分けて考えなければならぬだろう」